

平成 29 年度 長野県立歴史館協議会 議事録

1 日 時 平成 29 年 10 月 19 日 (木) 13 時 30 分から 16 時 00 分まで

2 場 所 長野県立歴史館 会議室

3 出席者

○委員 (五十音順) 久留島浩委員、小林正春委員、小松芳郎会長、下村征子委員、高澤政江委員、中條智子委員、中村孝子委員、山口敏男委員、山崎まゆみ委員、(欠席 早見千津子委員)

○県立歴史館 笹本館長、伊藤副館長、青木学芸部長、大竹総合情報課長、西山考古資料課長、中野文献史料課長、寺内専門主事、町田専門主事、伊藤専門主事

○県教育委員会 文化財・生涯学習課 櫻井主事

4 会議に付した事項

- (1) 平成 28 年度事業実施状況等について
- (2) 平成 29 年度事業について
- (3) その他

5 歴史館協議会

(1) 開会 (事務局)

それではただ今から、平成 29 年度長野県立歴史館協議会を開催いたします。
会議に先立ちまして、笹本館長からご挨拶を申し上げます。

(2) 歴史館館長あいさつ (笹本館長)

皆さんこんにちは。本日は、お忙しい中、しかもあまり天気が良くない中を、特に国立歴史民俗博物館からはこちらへ来られるだけで、きっと寒くなっているのではないかと思います。お集り頂きましたこと、誠にありがとうございます。私どもの歴史館、日々変わって来ていると思います。毎日、少しずつ変えながら、少しでも県民にとって役に立つ様な博物館になりたいと努力していますが、皆様の方からどのような評価をして頂けるか、どの様なご助言を頂けるか、今日は楽しみにしております。少しでも県民にとって役に立つ博物館にして行くために、是非皆様のお力、ご教授頂ければと思います。今日はよろしく願いいたします。

(3) 協議会委員紹介 (事務局)

この 2 月に委員の改選があり、委員の皆様には、2 月 7 日付けで委嘱状をお送りしましたが、平成 31 年 2 月 6 日までの 2 年間、委員をよろしく願いいたします。変わられた委員もいらっしゃると思いますので、配付してあります委員名簿によりご紹介させていただきます。なお本日、ご都合により欠席された委員は、早見千津子委員であります。(以下委員による自己紹介)

(4) 職員紹介 (事務局)

本日、会議に出席している当館職員を紹介させていただきます。(以下職員を紹介)

(5) 会議成立報告（事務局）

ここで会議の成立について報告いたします。お手元の委員名簿のとおり、委員総数は10名であります。本日は9名の委員の方にご参加いただいておりますので、長野県立歴史館管理規則第4条第3項の規定により会議が成立していることをご報告いたします。

(6) 会長・副会長選出（事務局）

本日の会議は新しい任期の最初の会議となりますので、議事に入る前に、当協議会運営細則の規定により会長、副会長を選出いただきたいと思います。なお、細則では、委員の互選によると規定されていますが、いかがでしょうか。

○山口委員

事務局の方で何かお考えがあれば、お聞かせいただきたい。

○事務局

事務局案として、会長に小松委員、副会長に下村委員をご提案させていただきます。

○事務局

ただ今、事務局案として、会長に小松委員、副会長に下村委員をご提案させていただきましたが、いかがでしょうか。（了承される）有難うございました。それでは、会長を小松委員に、副会長を下村委員にお願いいたします。なお、規定により会長が議長を務めるとされていますので、これからの進行は小松会長さんをお願いいたします。

○小松会長

ただ今、会長に選出されました小松です。（以下、挨拶）それでは、会議次第に従って会議を進めたいと思います。

6 議事（協議事項）

(1) 平成28年度事業実施状況について

それでは議事を進めさせていただきます。まず、議事の(1)を議題とします。資料1「(1)平成28年度事業実施状況」について事務局より説明願います。（以下、配布資料の確認）

○事務局

平成28年度事業実績について、主な事業についてご説明いたします。平成28年度の評価表をご覧ください。（以下資料をもとに説明）

○小松会長

平成28年度の評価表について、また歴史館での自己評価となっています。評議会での評価もお願いしていかないといけない。今の説明とこの評価表について、基本目標の3項目に従って、ご質問、ご意見をうかがっていきたいと思います。

基本項目1《長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします》

○久留島委員

行政文書のことを書いておられるが、今後は現代資料の収集がやはり大きな課題となる。現代までを考えておられることは重要なことだと思う。私どもも、何をどう集めるかひとつの課題となっている。どの様な中長期的な目標でやっているのかお聞きしたい。もう一つは、行政文書をどの様に扱っているのか知りたい。

○笹本館長

現状で、戦略を持って、近現代資料を集めているということはしていない。昨年度に関しては、資料購入費は用意されていなかった。これまで本館では、資料購入費が用意されずに電

気代の節約等により資料等の購入に充ててきた。そういった中で、近世文書・中世文書を買わざるを得ない。そのような中で、県民の皆様からご寄贈したいとかの話が出てきている。私どもそういったものを評価しながら、出来るだけ受入れるようにする。私どもの意識とすれば、歴史館は県民のお蔵になるべきだと。県民が持ち伝えられないような古文書等できるだけ私たちが預かり、伝えていくという意識の基に、どんな物でも見せていただく。その上で、重複とかどこにでもあるようなものを除き、決して受入れないようなことが無いように、近現代ではしている。もう一点は、今私どものところでは、文書担当が課長の他に2名職員がいる。ということは、1人が近世文書・中世文書中心とする担当、もう1人の方が県の行政文書、文書館機能を持っている。半分は、長野県史・信濃史料以降のものに対応をしている。すなわち、当館では、0.5人で県レベルの文書館としての対応している実情がある。そのような中で、文書等の整理をしている。私どもの方で、選択基準があるわけではなく、県の流れに従って、移管されるかたちになっている。それが、今うまくいっていないところがある。そこを突き詰める。歴史の重要性の中で、近現代に改めて目を向けながら、少しでもいい状況で受け入れる。なおかつ、本務に関心を示していきたいということが必要です。

○久留島委員

千葉県では公文書館が早くから造られていた。私は千葉県史に関わった中で、文書館があるので、これは大丈夫だといったものが、失われた事例が起きている。不要なものを捨ててしまったという。そういった中で、選択をどうするのか。誰が選んで、そして廃棄する時にどこでフィルターをかけるか。かなり重要だと思う。それがないと近現代、特に現代文書は残らないと思う。行政文書の移管は、ちゃんとした基準をもってしっかり管理しないと無くなってしまう。千葉県で実感していた。長野県は機能としてやっておられるということで、そのことを感じた。

○笹本館長

一番良い形態でいったならば、全ての文書に関して責任を持って、誰かが一定の基準でやるべき。現状では、保存期間が終わったものの中で、県側が出してきたものに限って廃棄処分の文書を私どもが選ぶという形にある。今の様な懸念で、近現代のしっかりした文書をどうやって伝えていくか。依然として課題がある。文書館を持っている他県かれれば、0.5人がこれに当たっているということがどういうものか。是非ご認識いただきたい。

○小松会長

今、千葉県文書館の話が久留島委員さんから出されたが、文書館に入ったら保存されると思いきや、千葉県文書館が大量に処分してしまい大変問題となったところです。しかもどういった基準で処分したのか。館長さんがいわれた県民のお蔵になるべきだということおりのだと思います。

○小林委員

おおむね自己評価ということですが、評価をするにあたって、目標値と達成値があってそれがどういう形となり成果が現れたのか。本来目標値があって、どのようなかたちで達成できたのか。値が数値化されていないと、評価のしようがない。達成値は、数値的な評価はされているが、目標値に数値が見られないため、比較のしようが無い。評価が難しい。基本的には、実施している内容を見ればA評価でよいかと思うが。その内、文献史料の自己評価Bとなっている理由が、ここが自己評価Aに対してBという、なぜここがBなのかがよくわからない。数万点の文書がある中で、対応した資料を見れば、たぶんそれに近い数値になるのだと思うが。なぜこれがBなのか分からない。それから、最後のところの考古資料の保存処理で自己評価Bになっている。基本的に目標の員数と回数が不足しているということになれば、達成値の比較できる部分のところ、Bとすれば甘い評価、たぶんC評価になるのではないか。要するに目標と達成値の比較できる部分だけ見たときに、この最後のところはC評

価はたぶんはなさそうな感じがする。以下の項目でもまったく同じことがいえる。やはり、目標値に対し達成値がどうだということ比較できない。昨年同じことをいったような気がするが、協議会を開いて委員が判断する根拠が、やっぱりなんとなく概念的で、歴史館の皆さんがいうのだからそうなんだろうという、そういう認識だけで良いとすれば、協議会自体の存在があまり意味を持たないということになるかなという気がする。

○小松会長

目標値がこの表現だと、いまいちはっきりしない。達成値は満足度であったり、点数が出ているが。その点いかがですか。

○事務局

この評価表で、すでに5年から6年くらいこの様な形で実施して来ている。いまのお話し、昨年も小林委員から頂いたということで、できる限り改善し目標値と達成値を設定してきた。まだまだ、双方がリンクしていないところが確かにあります。そんなところを改善していきたいと思います。全体としては、まずまずの予定通りというところで、先ほど、考古等のところで設定に問題があったのかと思います。ご指摘の通りです。今年度、このようなところ、ご意見を活かして活動していく。さらにブラッシュアップさせてゆきたい。

○小松会長

目標値もなかなか設定しにくい。しかも、こういうところですので年々増加するものですし、そこらへんが大変難しい。小林委員さんのご意見の通り、我々にもう少し目標値と達成値が分かるような工夫をしていたただければと思います。文献史料の目標値設定はむずかしい面もありますが。その他、何かありますか。

○下村委員

行政文書のことですが、大変むずかしいですね。東御市は文書館が在りません。これから造りましょうと提案しているところです。どういうものを取っておいて、どういうものを捨てるかという様なことは、私はよくわかりません。歴史館では、県レベルのものを0.5人でやっている。まさに神業のように思えますけど、物凄いですね。

○笹本館長

まさにそういう状況です。私も昨年、当館に来て驚いた。ちょっと信じられなかった。普通のところで、たとえば今日来られた松本市さんの話を聞いても、事務局に担当5名の職員が当たられている。私ども、館全体でもって管理4名、文書の部分で課長以下2名。このような状況で仕事をしていて、恐らくよそから見れば考えられない。実は、整理が専門ではなくて、出納もしていますし、それからこの館は質問があれば全て対応しています。個人的に言いますと、このままではやっていけないと思います。先ほどの久留島委員とまったく逆ではありますが、しっかり文書が来ていないのでまだ廃棄していない。要するに県の方で不要にした文書に当たっているが、しっかり文書が来ていないために、22,3年たっても満杯になっておらず、済んでいるところがある。これは、県とすればおかしな話です。皆さんが思っている以上に大変で、そういった意味でもまずは実情を知ってもらうことが、少しでも良くなっていく手段でもあります。よその県との比較の中で、お考えいただければありがたいものでもあります。

○小松会長

その他、1項目目について何かありますか。

○久留島委員

私はこの史資料保存講習会の開催というものは非常に素晴らしいと思います。ご存じのように神戸淡路大震災以降の防災ネット、自然災害が起こらないということはない状況になっている。常に文化財は失われる危機にある。そういうもしもの場合、そうなった場合、間近に接した市民の方が初期に何を知らなければならないかを知ってもらうだけでも重要。今後も身近にある文化財

にとってもよい試みではないか。

○小松会長

その他、いかがですか。よろしいですか。今の部分で小林委員から出ていますが、自己評価の所で文献史料のところでB。保存処理講習会の所でBとなっていますが、協議会としても考古資料保存のところでも、評価はいかがですか。

○小林委員

ここは大きく下回っている考古ではBよりはC。上の文献史料のところはBよりはAだろうと思います。

○小松会長

いかがですか。協議会とすれば、文献史料のところはA。その点についていかがですか。この協議会の評価として、考古資料のところはCと。こちらで評価としたい。（了承）

基本項目2【未来を映す歴史認識の泉としての役割を果たします】

○小松会長

全体について、どこからでも構いませんので、ご意見を頂きたいと思います。

○山口委員

最初のところに、常設展・企画展で、観覧者の人数が書かれている。両方とも昨年よりだいぶ増えていることがよく分かる。私、すぐお隣の古墳館に勤務しております、10月までの来館者を集計いたしましたら、同じく増えております。これは、ある意味は県立歴史館さんの方の増加の恩恵があったからだと思います。だいたい、特に学校現場から、両方見に来たからではないかと、ありがたいなと思います。2頁目にいきますと、自己評価Bになっていますが、内容を見ると中南信地域の校長会、教頭研修会等でアピールしていただいている。そういう努力が実を結んでいるのではないかと思います。それから、ホームページ等よく工夫され、やっているなと思う。古墳館はなにセスタッフが、ほとんどは臨時職員でやっているようなところがありまして、余力がありませんのでホームページの工夫ができない面もあります。その点はまた歴史館を見習い古墳館でも利用促進の努力をしていきたいと思っています。

○小松会長

その他、県民にとって役に立つ歴史館でもあります。子どもから大人まで、そうでありますが。学校教育もはいつていますが。

○下村委員

学校教育の方ですが、東御市の和小学校でも見せていただいております。子供達は、これは歴史館新聞、古墳館の方を主に子どもたちのものを借りてきた。いい勉強をさせていただいている。バックヤードも勉強になっているようです。私、昨日は中川村に行ってきた。木曾は山の中。本当に遠い。ここまで来るということはほんとうに大変だなと思います。館の年報を見ると館長さんの名前が沢山載っている。非常にご活躍で、本当にありがたいと思います。木曾や伊那へ出前で出て行っていただければほんとうに良いと思います。村では、バスを使い利用してもよろしいのではないか。

○笹本館長

ありがとうございます。木曾の方がこちらに来る場合はバスが必要です。学校の方では用意出来ないようです。実はセイジオザワフェスティバルのある時に来るのです。それは、あちらが車を用意し、そのついでにということでも来られる。いろいろ話を伺っていると木曾とかが、その他でこちらに来るという状況では中々、いままでなかった。ただ、昨年木曾展を通し、だいぶ来ていただいた。私、これからまだ2回くらい木曾に講座がありまして、合計すると今年5回は行くことになる。そういう中では非常に密接な関係を築いてきています。特にケ

ケーブルテレビジョンを使い。「見ています。」との話を聞くようになってきた。私共は、いままで東信・北信地方の歴史館ということで来た。松本へ行き歴史館というと、川中島のあるところですねと、市立博物館と区別が出来ていなかった。ここに来て、ずいぶん歴史館が分かるようになってきた。引き続き今のようなことをいっていただけるようになれば、私たちもさらに頑張れますので、どうか引き続きよろしく願いいたします。

○高澤委員

評価表2頁目の企画展と季節展等講演会で、講師の皆さん、ふだんお会いできない方ばかりで、また聞けないことが多い。企画展ではすばらしい講師の方をお呼び頂き楽しませていただいています。とても良い。私もたびたび参加させて頂いている。しかし、中々人気があり参加させていただく方から見ると、大勢来られ、時間ギリギリに来館すると、補助席も用意して頂きますが。もう少しゆっくり聴講したいという感想を持っています。また、来たくても来られない方もおられると思います。講演会のDVDを貸して頂けるとか、そんなようなことはどうですか。

○小松会長

講演会が盛況ということですが。いかがですか。

○事務局

講座の方、おかげさまで、ここ毎年のように受講者が増えています。以前はこの半分入ればというところでしたが、このところお陰様で150名から、定員では200名位ですが、やさしい歴史講座もそのくらいです。本当に満杯でいつもご迷惑をお掛けしています。駐車場の方も古墳館をお借りしているような状況です。館では別の部屋でのご覧頂けるような対策を取っていますが、先ほど館長の話しにもありましたケーブルテレビとか使用したりして、出来るだけ見ていただきたいと思います。DVDは、館の中で作成するかたちにはなっていないが、大勢の方に見ていただけるような講座を作っていくながら、同時にそういった工夫をしていきたいと思います。ありがとうございます。

○小松会長

今日の資料にあり、館長も話されているケーブルテレビの活用。見られない方も、DVDに録画すれば県全域で見られるようになる。良いことだと思います。その他ありますか。

○小林委員

度々、評価のところ、評価表2頁目の考古学講座のところ、これはAで良いのではないかと思います。それから、B評価の最後のところ。伊那市・安曇野市であったところを、伊那で開催できなかったということでBとなっているが、数値をクリアしているところからすれば問題なくA評価ではなからうかと思えます。それから、出前講座のところ、評価とは違いますが、たまたま、南信の伊那市で、新たに前方後円墳が確認されました。それは、地元の中学生在が測量調査したことにあります。そういったタイムリーな時期に、歴史館の先生方が出向いて子供たちの凄さを評価してあげることが、結果的に来館への集客にもつながるのではないかと思います。当然、年間行事の中で動いていると思いますが、やはり県内の大きなニュースソースを持った歴史館が関わることを地域の子供たちに対応していただけるとありがたい。要するに、南信は極めて来訪者が少ないわけですから。そういった働きかけを意図的に作り上げていったらいかがかと思えます。もう一点、誘客という観点から。長野県が、いってみれば県の基本的な方針としている観光戦略。信州の取り組みに、歴史館がどう関わるかということです。大きな目標値として、県の観光局と連携した具体的な姿として表現することによって、歴史館そのものの認知度を上げると同時に、やはり観光戦略で、これからは私的な観光が増えてくるわけで、新しい展開もあるかなと思えます。今後の課題にしていいただければと思います。

○小松会長

評価もよろしいですが、今後の課題としていかがですか。

○笹本館長

今年から、既にしなの鉄道との連携のもとに歴史館職員が案内すること始めている。私も知事からいわれたり、ここだけをやっていく訳にはいかなくて、北信濃の観光に対してどういう風なつながりを持っていくか。たとえば、つい最近では木曾谷へ行き木曾の御岳の観光の話をして来ている。戦略的に県の戦略とどの様に結びつけてやっていくかということを考えている。因みにいいますと、これもこのあとやっていく田中芳男展も、県が東京農大と結びつくとあって、わざわざ中に東京農大の問題を入れたりしている。これから、展示の中で、県の政策と摺り合わせながらやっていくことを増やして行く。そういった中で、小林委員のお話も少しずつ入れていくようにしたい。先ほど目標値に具体的な数値等入っていないというご指摘がありますが、この次検討していく県立歴史館平成29年度の目標、これまで審議していただいたことは我々やっていき、そこには以前から目標数値を増やすようにして行きます。引き続きご指導願います。

○小松会長

その他、いかがですか。

○中條委員

館長さんをはじめ職員の皆さんに頑張っていただき来館者も多く、苦勞様でございます。先ほどいわれました講座の時に講堂が満杯になるということでしたが、評価表1頁のところで常設展のところで、説明していただきよかった。案内が無かったときには案内が欲しいなと思いました。展示品はもう少し分かり易く並べていただければありがたいなと思います。もう少し多くの来館者が呼べるような。照明が暗いとのことなど、どうか思います。

○笹本館長

会場、講堂を広くすることは、現在のところ構造状できない。むしろ、問題なのは、もう少し使いやすくするために、席数を減らさなければならないことです。そういうことですから、他の部屋で、直接講演の内容が聞こえるようにということ今動いているということです。いまの段階では、座席数を増やすということではできないということです。2点目ですが、今年、実験としてビーコンの解説を考えている。国際的というところで、当館は極めて遅れている。英語・中国語・韓国語に対応していない。このため、信大と調整している。よろしければ、今日午後にでも見ていただければありがたい。それから照明の問題ですが、証明を暗くしている最大の原因は資料保存のためです。特に紙類は、保存のためには良くないということです。明るければ良いというものではない。むしろ研究の上に照度を落としていることをご理解下さい。

○小松会長

松本会場、伊那では、BをA。A評価にすることでよろしいでしょうか。（承諾）あと、下の利用促進を図るもよろしいでしょうか。

○宮崎委員

いままでは、小学校についてよく対応していた。今度は高校の方にも目を向けられて、昨年は屋代南高校で鎧甲の展示を行っており、私はAでよいのではと思います。

○小林委員

努力はしたが、できなかった。このことはあえてBとして、歴史館の課題というよりは、県教委の課題として残したらどうか。私はこのままのB評価でよいと思います。Aで括弧Bでどうでしょうか。

○笹本館長

今、小林委員さんの非常にありがたいご意見を頂いた訳ですが、私は協議会委員の皆さんが

来られているときは、最低課長以上は来るべきではないかと思います。ところが、今までここでは県教委の方に要請をして来なかったこともある。改めて、実は今回来てほしいと要請していたが、他用で来て頂けなかった。課長も補佐も来なかった。県の方も責任のある方に来てもらうようにしたい。私どももそのつなぎの役目をしていきたい。

○小松会長

この会としても県の方に来て頂きたいと言うことをお願いしたいと思います。

○小林委員

私どもは長野県教育委員会から委託されている。やはり、条例で決まっているならば、やはり県の教育行政の位置づけとして知らん振りはありえない。今日は、桜井主事が来て頂いているので、耳が痛いかもしれませんが、会としての思いを伝えて頂きたい。よろしくお願いします。

○小松会長

この協議会として、そのような立場に置かれているということ。対応して頂きたいと思います。評価表3枚目ですが、いかがですか。

基本項目3【楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします】

○小松会長

自己評価は評価表の通りです。いかがですか。県の職員にアンケートをしたということですが、県職員が仕事として文書館的機能を利用したという事例はそんなにないですか。

○事務局

まず、ないです。

○事務局

いままで、測量図を建設部職員が建設の様子を明治とか大正のものを確認したいとして、見に来たことはありますが、実際に簿冊閲覧の請求はありませんでした。私が知る限りでは。

○久留島委員

むしろ、そういうことも含めて教育委員会だけではなく、広く文書の提供も文書館としてすべきではないか。もし文書館的機能を果たすならば、必要ではないか。

○笹本館長

いまの久留島委員の話をきちんとご意見として、こちらの方にそのような役割を果たすべきだという意見として頂きますと、私どもはそれを上手につなげながらやっていきたいと思います。今の状況は0.5人で持ってくるしかできませんが、これが本当の文書館ではないような気がします。今のような意見を使わせて頂きたいと思います。

○小松会長

県立歴史館は複合館ですね。文書館と博物館一緒です。それぞれが役割を持つての複合館です。文書館的機能は非常に大事だと思います。県の行政文書を持っている、県の職員が利用する場でもなければならぬということは県民が必要とすることです。会としても久留島委員さんの意見を採り上げたいと思います。

○小林委員

県職員アンケートは非常に良いことですね。中々組織として出来ないこともある。館長さんをお願いしたいことは、是非市町村にも波及させて頂きたい。県の博物館協議会をともし市町村へ波及させて頂きたい。

○小松会長

自己評価をこの評議会として、よろしいでしょうか。

○小林委員

内容を見たらなぜBなのか。

○小松会長

なぜBですか。

○事務局

自己評価をBにしましたのは、目標を立てたときは前課長で、私が評価に当たっている。私としては、数字として数を上回っているものの、まだボランティアの養成部分で、もう少しできるのではないかと思います。結局、解説をしていただく方がそれほど延びていない。今その予備軍は20名ほどおられますが、年間もう少し増やし、デビューして頂きたいが、その部分でもう少し数字が上がらずこのような評価に及んでいます。

○小松会長

それは、歴史館としての課題でもあるわけですね。協議会ではBとする。

○事務局

出来れば、ボランティアさんの研修を今年度増やすということです。そういう形で対応していきたいと思います。

○小松会長

それでは、全体として目標値をもう少し合わせて頂いて、達成できるようにしてください。それでは、議事の6の(2)平成29年度事業について説明願います。

○事務局

(「平成29年度県立歴史館事業計画概要」の説明)

○小松会長

平成29年度の事業計画概要についていかがですか。

○中村委員

子供達の体験。感動と発見がある。今年度は南高校の生徒が来ている。戦国ものに興味がある。戦国偉人伝などすごく大好きです。そのような時代物がもう少しあるといいなと思います。たとえば、甲冑みたいな物で、実際の重さなど体感し、当時を感じられるようにしてほしい。もう一つ情報提供でホームページの話がありましたが、子供も向けの情報提供が必要かと思いません。年度初めに、子供向けのチラシ等頂くが、子供と地域のふれあう様なタイミングを見て、信毎の日曜日「子供新聞」と協力しながらでも、イベントの少々前にポスターの様な形ですと、子供の目に止まるのかなと思います。子供が歴史館に行きたくなるようにして頂きたい。

○事務局

親子歴史ふれあいコーナーの設立にリンクさせて、ホームページの中での子供向けの情報提供を充実させたい。親子向けの歴史館情報の発信など館長が目指す「子供を据える」という観点を重視します。

○小松会長

平成32年に親子歴史ふれあいコーナー実施ということですが、そういう中でいかがですか。

○久留島委員

大学との連携をもう少し実施してもよいかということで、私どももビーコンに注目しています。それから比較的使いやすい物を考えているということです。もしそういったものが参考になれば使っていただきたいと思います。最近、やはり大学との連携が課題でして、近世をやらなくなったということで、大学で古文書を教えているということをやらなくなった。そういうところで、ティーンズ古文書講座は非常に良い方向だと思います。次世代にどうつなげるか。県の文書館としてやっていただくことは非常に良いと思う。あと課題としては、国際関係、大学との連携が必要か。後、地元の議員を呼んでくるとか。非常に嫌なことですが大事だと思います。県の歴史と文化を守れというなら必要。そのあたりを目標の数値にする必要はないと思います。

○笹本館長

今、常設展示室の蚕糸で虫が出た問題があり、信大繊維学部とともに考えている。また、ビーコンは工学部。ビーコンは信州大学院生に対応していただいた。県内各地からあらゆる面から密接な関係を持っていく必要がある。また、議員さんとの連携も大事ですが、このたび、知事と議員に来ていただき、夏季企画展「長野県誕生」のオープニングをやった。県職員も少しずつ増えている。この次の田中芳男展では副知事にテープカットしていただく予定でいます。政治的な部分も動かしたいと思っています。また、ビーコンは信州大学だけでなく、県の国際課とも連携を考えている。

○小松会長

その他、協議会の委員としてご要望、ご意見がありますか。

○小林委員

具体的なところで申し訳ありませんが、信州の歴史を考える時に、古墳時代から、昭和前期まで、どの時代も馬が関わっていると私は思う。長野県の歴史の中で馬は8割方関わっている。それぞれの計画をこれから進める中で馬を是非忘れないで取り入れてほしい。それから、関係法令が年報に入れていただいているが、この協議会の趣旨や目的、歴史、運営細則。具体的に何をするのか分からない。博物館法20条がそうなのか。何をするのか。県教委に反映させて欲しい。

○事務局

今、古墳時代以降について、小林委員さんのお話しは検討しています。長野県内の馬具は保存状態が非常に悪い。それから、なかなかお借りできない事実がある。木曾馬の価値観も共有しているところです。今後、何かしらで活用していきたいと思います。また、伊那で子供が発見した古墳の評価。過去の資料を取出し歴史的评价を与える展示に持っていこうとする学芸員さんへの評価。積極的にこちらから発信しているし、また今後も行っていく。

○小松会長

協議会の位置づけとかいかがですか。

○事務局

この協議会として、具体的に県としての位置づけをはっきりさせたい。

○小松会長

今回の防災対応では、歴史館が即対応された。県の中で防災委員会が立ち上がり、すばらしいことでした。

その他で、委員の皆さん、事務局に何かありますか。

それでは、以上を持ちまして、皆様の協力を得て審議は無事終了致しました。

○笹本館長

いつものことながら、応援のメッセージを頂きました。感謝申し上げます。今日頂いたご指導を基に歴史館をさらに前に進めて参ります。

○閉会（事務局）

以上をもちまして協議会を閉会いたします。